

日本映画衛星放送株式会社 第38番組審議会議事録

1. 開催年月日 : 平成26年3月11日(火) 15時～16時
2. 開催場所 : 東京都千代田区有楽町1-1-3 東京宝塚ビル15階
日本映画衛星放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席 : 委員総数 8名 / 出席委員数 8名
出席委員(順不同、敬称略): 菊地 実・鈴木 嘉一・川本 三郎・坂井 保之・
曾根 和子・田保橋 淳・鳥居 美砂・西 正
放送事業者側出席者:

代表取締役社長	杉田 成道
常務取締役	酒井 彰
取締役	佐藤 信彦
編成制作局長	宮川 朋之
編成制作部長	澤 尚志
編成制作部「落語時代」担当プロデューサー	吉田 尚子
番審担当	堤 靖芳
	清水 明(記)

4. 議題(1) 審議事項

時代劇専門チャンネル「落語時代」について。

(2) 報告事項

日本映画専門チャンネル「総力特集・ゴジラ」について。

5. 議題(1) 概要

時代劇専門チャンネルでは、時代劇の主な舞台である江戸時代の雰囲気を感じて頂くべく、2009年より古典落語の中継番組を制作・放送してきた。2012年、好評に応じて番組を現在の「落語時代」にリニューアルしている。ついては、以下のポイントについて審議し、今後の番組制作に生かしていく。

◇時代劇専門チャンネルで、時代劇以外のコンテンツを放送することについて。

◇時代劇以外のコンテンツとして、「落語時代」が時代劇専門チャンネルに相応しい題材かどうか。

◇「落語時代」は、落語の魅力をきちんと伝える、視聴者にとって魅力的な番組となり得ているか。

6. 議題（1）審議内容

- ・古典落語は江戸時代を描く話芸による時代劇であり、コンテンツとして妥当だ。落語家の人選も良く、魅力ある番組。審議ポイントとされる3点全てに合格点を出せる番組だが、トークコーナーについては、好き嫌いが別れるかもしれない。
- ・落語に興味はなく、詳しくもないが、番組を見たら描かれている江戸時代の雰囲気が変わり、映像が浮かんだ。面白かったし、良いと思う。トークコーナーは、例えば江戸時代のトリビアを紹介するようなコーナーだったら、私はもっと興味深く見られる。
- ・落語番組として十分面白かった。「七段目」の歌舞伎調の台詞とか、「大工調べ」の大工の棟梁の台詞とか、思わず拍手したくなった。現在使われなくなった古い江戸言葉をそのまま使っているのも好ましいと思う。
- ・「大岡越前」スタートと同時に、関連する嘶を取り上げるというのは、良いところに目をつけたと感心した。落語の内容も面白かった。ただ、せっかく独自のイベントとして番組収録したのに、その雰囲気が番組内に無かったのはもったいない。
- ・落語と時代劇は相性が良いし、放送するドラマとの接点は、やはりあった方がこのチャンネルらしい。古典芸能ならば、歌舞伎なども時代劇専門チャンネルの放送番組として相応しいと思うが、どうか？
- ・出演の市馬はとても声が良く、思わず聞き入った。江戸言葉も面白かった。演者が上手いのだから、細かくスイッチングせず、ややヒキ目でじっくり見せても良かった。
- ・高飛車ではない落語番組は大歓迎だ。独立した番組として十分楽しめると思う。本格的落語番組の登場は素直に嬉しいし、大いにやって貰いたい。
- ・時代劇専門チャンネルの視聴者から見たら、この番組は違和感があると思う。とはいえ、庶民文化を新たに問うのは良いことだし、チャンネルに合っていると思う。ただ、登場する落語家の芸は、志ん朝などの名人を知る世代からすると、生硬で青臭い。

<事業者回答>

- ・トーク部分については準備不足だったし、ドラマの宣伝としての番組作りの意識が先行し過ぎた反省がある。歌舞伎は衛星劇場で放送しているが、松竹の取り扱いコンテンツであり、ハードルが高い。
- ・番組は、視聴者から観客を募集し、収録を行った完全に当社のオリジナルである。番組を初めてご覧になる方もおられるだろうし、もっとオリジナル感を伝えた方が良かったかもしれない。時代劇以外の番組を放送しないでもいい、といったお叱りの声もないではないが、時代劇専門チャンネルのオリジナル番組として成熟してきているし、チャンネルのファンサービスとして喜んで頂けている面もある。
- ・今古典落語としっかり取り組むことは、地上波でも出来ていないので、価値があると思っている。また、時代劇のライブ、という意味も持っているつもりだ。時代劇の制作本数が減っている中、こうした番組なども制作しつつ、マンネリ感を打破していきたい。

7. 議題（2）報告事項

2014年、ゴジラ生誕60年のメモリアルイヤーに新作『GODZILLA』の公開が決定した。制作は『ダークナイト』や『パシフィック・リム』で知られるレジェンダリー・ピクチャーズ。

日本から渡辺謙も出演している。全米では5月、日本では7月に公開される。

こうした動きに連動し、日本映画専門チャンネルでは、3月5日より『ゴジラ』30作品を1年にわたり放送することを決定した。また、作品を放送するだけでなく、様々な企画を盛り込んで、ゴジラの還暦を盛り上げていく。

8. 連絡事項：次回番組審議委員会は、2014年5月13日開催。